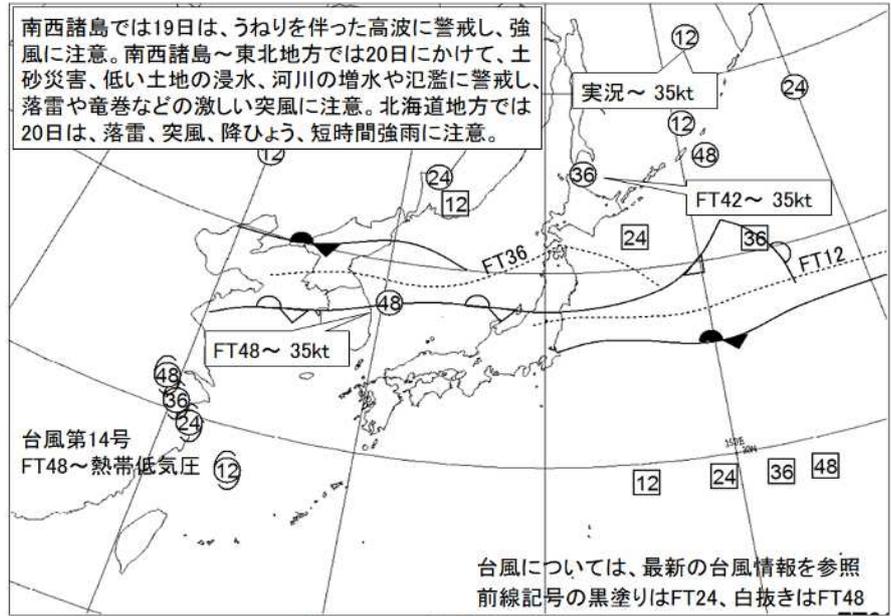


### 1. 実況上の着目点

- ① 台風第14号は、沖縄本島地方に接近後、東シナ海を西北西進。台風周辺では、雷を伴って猛烈な雨を解析している。また、強い風が吹き、大しけとなっている所がある。
- ② アリューシャンの南に低気圧があって、そこから東北地方を通り日本海に前線がのびている。前線に向かって、太平洋高気圧の縁辺をまわる下層暖湿気が流入、日本海では雷を伴い猛烈な雨を解析している。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の台風第14号は、19日は東シナ海から華中へ進み、20日までに熱帯低気圧に変わる見込み。南西諸島では19日は、強い風が吹き、大しけとなる所がある。うねりを伴う高波に警戒し、強風に注意。また、南西諸島～西日本では20日にかけて、台風本体や台風周辺の下層暖湿気の影響で、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷、突風、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項②の前線は、19日は東北地方から東日本に南下し次第に西から不明瞭になる。また、これとは別の前線が、19日夜までに朝鮮半島付近で顕在化し、20日は、日本海から東北地方にのびる。これらの前線に向かって、1項①の台風第14号の周辺の下層暖湿気や、太平洋高気圧の縁辺をまわる下層暖湿気が流入して、大気の状態が非常に不安定となる見込み。このため、雷を伴って非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。西日本～東北地方では、20日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。
- ③ 20日は、500hPa 5640m 付近のトラフが北海道付近を通過。対応する低気圧が沿海州から千島近海へ進む。これらの影響で、北海道地方では20日は大気の状態が不安定となる。落雷や突風、降ひょう、短時間強雨に注意。
- ④ 西～東日本では、19日は、500hPa 5940m の上空の高気圧に覆われて、晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。熱中症に注意(熱中症警戒アラート参照)。

### 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：九州南部・奄美120、北陸・沖縄100mm。②波浪(明日まで)：奄美7、沖縄・九州南部6、九州北部・四国4、東海・近畿3m。③高潮(明日まで)：大潮の時期。東日本～南西諸島で注意報基準を超過する所がある。

- 5. 全般気象情報発表の有無 「台風第14号に関する情報(総合情報)」を5時頃に、「雷と突風及び降ひょうに関する全般情報」を6時頃に発表予定。